

# 【 杵 築 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語

	全体	学習指導要領の内容				
		言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	70	70.4	65.9	77.3	33.8	74.6
大分県	69	71.6	63.2	76.0	28.3	72.9
全国	67.2	71.2	63.4	72.6	26.7	71.2

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」、「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」（知識・技能）は全国平均を0.8ポイント上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」領域の「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話しての考えと比較しながら自分の考えをまとめる」（思考・判断・表現）は全国平均を8.1ポイント上回っている。
- 「書くこと」領域の「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」（思考・判断・表現）は全国平均を7.1ポイント上回っている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域の「日常よく使われる敬語を理解している」（知識・技能）は全国平均を4.6ポイント下回っている。
- 正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国より少ない。（市：3.0% 全国：4.2%）
- 14問中12問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が4問あり、自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

- ① 「漢字を文の中で正しく使う」ことについては、今後も継続して漢字の持つ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。そのために、国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れる。また、タブレット（AIドリルや漢字アプリ等）で既習の漢字の習得を図る。言語能力の育成は必須であり、読書活動の推進も図る。
- ② 国語科での言語活動において、自分の考えを書く活動を取り入れ、根拠をもとに説明させる等、表現させる学習を積み重ねてきた。話し合い活動を取り入れる際は、話し合う目的や意図を明確にしたうえで、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるよう、多様な表現を話し合いの中で用いることにより話し合いの質の向上を図っていく。
- ③ 敬語を使う場合、相手と自分との関係を意識しながら、相手や場面に応じて適切に使うことが大切であることから、地域人材との交流等による生活に根ざした体験活動の中で習得を図っていくことも考えられる。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図る。

# 【 杵 築 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数

	全体	学習指導要領の領域			
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用
杵築市	65	70.6	48.1	70.2	71.2
大分県	64	68.5	51.0	71.1	67.5
全国	62.5	67.3	48.2	70.9	65.5

- 「数と計算」の領域では、「加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る」（知識・技能）は全国平均を6.9ポイント上回っている。
- 「データの活用」の領域では、「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と式を用いて記述できる」（思考・判断・表現）は全国平均を9.5ポイント上回っている。
- 「図形」の領域では、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断する」（思考・判断・表現）は全国平均を1.6ポイント下回っている。
- 「変化と関係」の領域では、「百分率で表された割合について理解している」（知識・技能）は全国平均を2.1ポイント下回っている。
- 正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少ない。（市：4.0% 県：5.1% 全国：6.4%）
- 16問中14問で、無解答率が全国値より低い。自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

- ① 「データの活用」については「複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断できない事柄について判断するためのグループでの話し合い活動」が効果的であったと思われる。今後も継続して取り組むことで一層の定着を図っていく。
- ② 「図形」領域では、正三角形や正方形・台形の意味や性質について理解できている。半面、図形の構成する要素に着目し、見方・考え方を働かせ、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだすことができていると考えられる。具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるようにするための問題解決的な展開の授業改善を引き続き推進する。
- ③ 割合を用いて問題を解決する場面において、示された割合から基準量を具体的に決めて、それに対する比較量を捉えることができるようにすることができていなかったと考えられる。日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導する。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図る。

# 【 杵 築 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：国語

	全体	学習指導要領の内容					
		言葉の特徴や 使い方に関する 事項	情報の扱い方 に関する事項	我が国の言語 文化に関する 事項	話すこと・聞 くこと	書くこと	読むこと
杵築市	69	64.3	61.4	77.4	80.6	60.5	64.0
大分県	69	65.2	62.6	76.4	81.4	60.1	62.2
全国	69.8	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7

□全15問（選択式7問・短答式4問・記述式4問）であった。記述式問題形式については全国正答率68.0%であるのに対して杵築市69.0%と昨年に引き続き全国平均を上回っている。

■「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、「文脈に即して漢字を正しく書く」（知識・技能）で全国平均を4.8ポイント下回っている。

□「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる」（思考・判断・表現）は全国平均を7.0ポイント上回っている。

■「話すこと・聞くこと」の領域では、「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる」（思考・判断・表現）で全国平均を3.9ポイント下回っている。

■正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より多い。（市：6.0% 県：4.8% 全国：4.5%）

□15問中10問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が4問あり、自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：国語

① 今年度課題が見られた「文脈に即して漢字を正しく書く」ことについては、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導する。1人1台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることができるように指導することも考えられる。

② 成果が見られた記述式問題については、各学校の授業改善による思考ツールの活用や、学び合いの場の設定が効果的であったと思われるため、今後も継続して取り組む。

③ 「話すこと・聞くこと」については、総合的な学習の時間の職場体験学習や、他教科の中でも話し合い活動を意図的に仕組むなど、教科横断的な視点で教育課程を編成し指導していく。

④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図る。

# 【 杵 築 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：数学

	全体	学習指導要領の領域			
		数と式	図形	関数	データの活用
杵築市	53	63.8	29.7	56.1	54.2
大分県	49	60.8	28.7	50.4	48.3
全国	51.0	63.0	33.2	51.2	48.5

□全15問（選択式4問・短答式6問・記述式5問）であった。短答式で全国正答率62.6%に対して杵築市68.0%と昨年度に引き続き全国平均を上回っている。記述式については、前年度の正答率を3.8ポイント上回ったが、全国平均を2.4ポイント下回っている。

■「図形」の領域では、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」（思考・判断・表現）で全国平均を10.3ポイント下回っている。

□「関数」「データの活用」領域では、概ね良好であり、昨年引き続き全国平均を上回っている。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少ない。（市：15.0% 県：19.6% 全国：17.5%）

□15問中12問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が4問あり、自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

- ① 「振り返り」の場面で、振り返りシートを活用することに引き続き取り組む。理解が不十分な生徒に対し個別に教材を用意し取り組ませることにより、学習内容の定着を図る。
- ② 今年度改善が見られた「データの活用」については、データを読み取った上で、事柄が成り立つ理由を筋道立てて考える活動（ペア・グループ活動）が効果的であったと考えられる。1人1台端末や、大型提示装置を有効活用し、今後も継続し指導する。
- ③ 「図形」については、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるように指導する必要がある。その際、1人1台端末や、大型提示装置を有効活用し、視覚的に生徒を補助することも考えられる。
- ④ 上記の改善方策や1人1台端末の活用を取り入れた授業について、校内研究会や杵築市教育課程研究協議会の授業研において公開し、多くの教員が参観することによって、どの学校でも全ての生徒が考え表現する授業を実施できることを目指す。
- ⑤ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図る。

# 【 杵 築 市 】

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：英語

	全体	学習指導要領の領域		
		聞くこと	読むこと	書くこと
杵築市	42	57.2	44.3	19.9
大分県	41	53.3	47.5	19.1
全国	45.6	58.1	51.2	23.4

- 全17問（選択式12問・短答3問・記述式2問）であった。全ての問題形式の正答率で県の数値を上回っている。選択式で4.1ポイント、短答式で4.8ポイント、記述式で1.7ポイント全国平均を下回っている。
- 「聞くこと」の領域では、「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る」（思考・判断・表現）が全国平均を3.1ポイント上回っている。
- 「読むこと」の領域全体では、全国平均を6.9ポイント下回っている。
- 「書くこと」の領域全体では、全国平均を3.5ポイント下回っている。
- 正答数4問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少ない。（市：20.4% 県：32.1% 全国：26.6%）
- 17問中16問で、無解答率が全国値より低い。また、そのうち無回答率0%が10問あり、自分の考えを持って粘り強く取り組んでいる。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：英語

- ① 学習指導要領の「聞くこと」の領域については、教師や友人の話す英語を聞く活動や、ALTやALTコーディネーターの有効活用等による学習活動を継続し、より一層の定着を目指す。
- ② 「読むこと」領域で、文章の概要を捉えさせるには、個人では気づかない視点を得るために、生徒同士で検討するペア・グループ活動の場面を設定する。その際、1人1台端末や、大型提示装置を有効活用する。
- ③ 「書くこと」領域で、生徒質問紙70「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」では、全国値を1.3ポイント上回っていることから、今後も自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れる。その上で、基本的な語や文法事項等を理解して文章を書くことができるよう指導する。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図る。